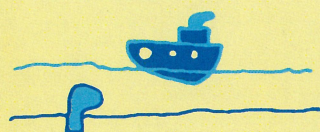


人道の港

敦賀ムゼウム



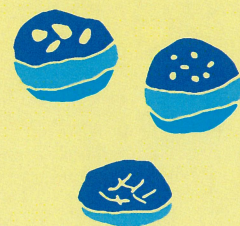
敦賀ムゼウム リニューアル5周年
見て、知って、理解する3日間。



Port of Humanity
Tsuruga
Museum
Renewal 5th
Anniversary



みる
しる



わがる
ムゼウム
Days!

入館無料



2025年11月1日(土)・2日(日)・3日(月・祝)

◎開催時間 9:00~19:00まで開館延長(※最終入館は18:30まで)

※10月31日(金)は臨時休館となります

後援: 駐日ポーランド共和国大使館 ポーランド広報文化センター 駐日リトアニア共和国大使館 駐日イスラエル大使館



子供たちが遺した絵や詩が私たちに教えてくれる テレジン収容所の若い画家たち展

1989年、野村路子氏はチェコのブラハで、ホロコーストの犠牲になった子どもたちが生前



に描き遺した絵と出会いました。子どもたちの生きる力、それを支えようとした大人の勇氣、80年前のその事実を多くの方に伝えるための展覧会を開催します。

11/1~
2026.3.1

企画展関連講演会

1万5000人のアンネ・フランク ～絵を描くことは生きる力～

11/3

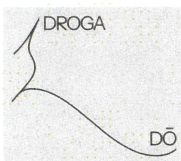
14:00～15:30
(13:30開場)

講師：野村路子氏（ノンフィクション作家）テレジンを語りつぐ会代表
命の大切さ、生きていることの素晴らしさ、当たり前と思っている今の生活への感謝、他人への優しさ、自己犠牲の意味、希望を失わず生きること、そして、自分に何ができるか—それを考えるために「テレジン」を知ってほしいのです。【申込不要・先着50名】



クラシックコンサート

DROGA DŌ – 記憶の道



11/1

18:00～19:30
(17:30開場)

国境を越え人々の記憶と希望を音楽でたどる“記憶の道”。ホロコーストの記憶、消えた隣人たちへの想起、そして人間の尊厳の回復。クラシック音楽の名曲とともに、人道的勇氣によって繋がれた人々の物語を音楽で紡ぎます。【申込不要・先着50名】

海外文化体験 ワークショップ

11/2

10:00～17:00
フィンランドの伝統装飾品「ヒンメリ」作りやバルーンアート、海外のボードゲーム体験などでもできるよ！



敦賀高校創生部による ポンチキ・ツルシチ販売

敦賀高校創生部が考案したポーランドのドーナツ「ポンチキ」や敦賀版ボルシチ風スープ「ツルシチ」の販売。

11/3

9:30～12:00

敦賀高校創生部による 館内ガイド

11/3

9:30～12:00



※各コーナー、時間等変わる場合があります。詳しくはHPをご覧ください。

ムゼウムゆかりの 国々の飲食・物販・展示

リトアニアやポーランドなど関係国をはじめとする海外の雑貨や食べ物の販売のほか、キッチンカーも出店します。敦賀市ゆかりの国の紹介もあるよ！



※写真はイメージです

ガチャガチャチャレンジ

小学生以下の子どもたちはガチャガチャに1回チャレンジできます！

【各日先着50名】

11/1～3

9:00～19:00

アートを通して敦賀とポーランドの 子どもたちの心を繋ぐプロジェクト作品展示

全長6mにわたる大きな橋の絵を展示。橋の半分を敦賀の子どもたちが、半分をポーランドにいる子どもたちが描き、ひとつの「大きな友情の架け橋」を完成させました。ポーランドに展示後、敦賀に帰ってきました！

11/1～3

9:00～19:00

関連イベント講演会

昭和100年 世界の中の日本、そして敦賀

講師：小倉和夫氏（元駐韓国大使、駐フランス大使）
1938年東京都生まれ。駐韓国、駐フランス大使など歴任。祖父は敦賀ゆかりの方。

会場：きらめきみなと館小ホール
主催：気比史学会

11/8

14:00～16:00



人道の港

敦賀ムゼウム

Port of Humanity TSURUGA MUSEUM

914-0072 福井県敦賀市金ヶ崎町23-1 Tel.0770-37-1035

◎開催時間 9:00～19:00まで開館延長（※最終入館は18:30まで）

◎入館料：無料 ※10月31日（金）は臨時休館となります



人道の港

敦賀ムゼウム

DROGA

DŌ

歴史をただ「知る」だけでなく、音楽を通して「感じる」時間。敦賀から世界へつながる“人道の物語”。忘れがたい感動の一夜を、一緒に。

DROGA DŌ、国境を越え人々の記憶と希望を音楽でたどる“記憶の道”。ホロコーストの記憶、消えた隣人たちへの想起、そして人間の尊厳の回復。クラシック音楽の名曲とともに、人道的勇気によって繋がれた人々の物語を音楽で紡ぎます。

出演

アニャ・カルポヴィッチ (フルート)
クリスティーナ・レイコ・クーパー (チェロ)
アリツィア・キェルザルスカ (ファゴット)
川口 成彦 (ピアノ)

クラシックコンサート

DROGA DŌ – 記憶の道

2025.11.1 Sat 18:00-19:30

(17:30開場)

会場：人道の港 敦賀ムゼウム 研修室

入場無料(申込不要)・定員 50名(先着順)

人道の港 敦賀ムゼウムリニューアルオープン5周年

みる しる わかる ムゼウムDAYS

◎2025年11月1日(土)・2日(日)・3日(月・祝) ◎入館料 無料

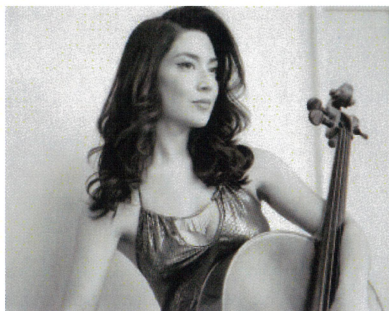
◎開催時間 9:00~19:00まで開館延長 (※最終入館は18:30まで)

914-0072 福井県敦賀市金ヶ崎町23-1 Tel.0770-37-1035

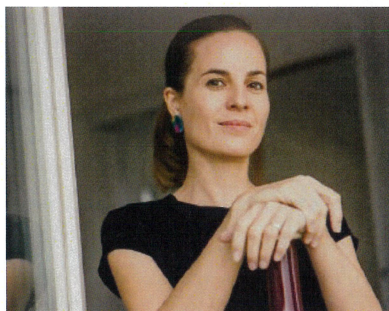




アニャ・カルボヴィッチ (フルート)
DROGA DŌ Festival芸術監督、国際的に活躍するフルーティスト。ポーランド文化功労勲章やフ
リデリク賞に輝く注目の音楽家。



クリスティーナ・レイコ・クーバー (チェロ)
ジュリアード音楽院博士号取得、テルアビブ大
学客員教授。世界の舞台で幅広く活動し、新作
初演や巨匠との共演を重ねるチェリスト。



アリツィア・キェルザルスカ (ファゴット)
NFMヴロツワフ・フィル首席奏者、ルトスエ五重
奏団創設メンバー。豊かな音楽性で世界各地の
聴衆を魅了するファゴット奏者。



川口 成彦 (ピアノ)
ショパン国際ピアノコンクール入賞、フォルテピ
アノを専門とする俊英。国内外の音楽祭に招かれ、
繊細かつ深みある演奏で注目を集めるピアニスト。

クラシックコンサート

DROGA DŌ – 記憶の道

2025.11.1 Sat 18:00-19:30

(17:30開場)

会場：人道の港 敦賀ムゼウム 研修室 入場無料(申込不要)・定員 50名(先着順)

ポーランド語で「道」を意味する「DROGA」と「～へ」の意味を持つ「DŌ」。そして、「DŌ」は日本語の「道」を意味し、また、多くの言語で音階の最初の音を連想させます。こうしたかけ言葉から生まれた「DROGA DŌ」は「音楽の道」を表しており、ポーランドとリトアニアを経て日本、そしてイスラエルなどにたどり着いたユダヤ難民たちのたどった道のりを反映しています。

ワルシャワの音楽祭「Warsze Muzik」を主宰するフルーティスト、アニャ・カルボヴィッチを中心に、ポーランド・日本・イスラエルを代表する音楽家たちが、かつてポーランド孤児やユダヤ難民を受け入れたまち敦賀に集まり、美しくも心に迫る旋律を通して、歴史と記憶が響き合う特別なひとときをお届けします。

プログラム

M.ヴァインベルク：2つのマズルカ (1933)

A.タンスマン：ファゴットとピアノのためのソナチネ (1952)

池内友次郎：日本古謡によるバラード (1936)

J.アクロン：ヘブライの子守歌 (1919)

G.フィテルベルク：ピアノ三重奏曲 作品10より (1901)

プログラムについて

プログラムの幕を開けるのは、若きミェチスワフ・ヴァインベルク作曲による2つの「マズルカ」である。1939年9月に包囲されたワルシャワから東側に逃れることになる彼がその何年も前にワルシャワで書いた作品だ。続いてお届けする超絶技巧的作品「ファゴットとピアノのためのソナチネ」は、ポーランド系ユダヤ人でパリに移民したアレクサンデル・タンスマンが1952年に書いたもの。その第2楽章では言葉のない哀歌の性格を持った、ぐっと身にせまる歌が奏でられる。これに続く「日本古謡によるバラード」は1936年に池内友次郎が作曲したもので、時間の流れを穏やかに受け入れる表現が特に注目される。ジョゼフ・アクロンの「ヘブライの子守歌」は、まるでリトアニアの狭い路地で、夕方、とある家の窓からふと聞こえてきたかのような風情があり、杉原千畝やヤン・ズワルテンダイク、タデウシュ・ロメルら3人の外交官の勇気によって救われた子どもたちの姿を彷彿とさせる。演奏会を締めくくるのは、グジェゴシュ・フィテルベルクの「ピアノ三重奏曲 へ短調」作品10。傑出したユダヤ系ポーランド人作曲家であり、第3楽章のエレジーは特に美しい。

アニャ・カルボヴィッチ

協力：  ADAM MICKIEWICZ INSTITUTE  ポーランド広報文化センター INSTYTUT POLSKI TOKIO  oto foundation

後援：駐日ポーランド共和国大使館 駐日イスラエル大使館

